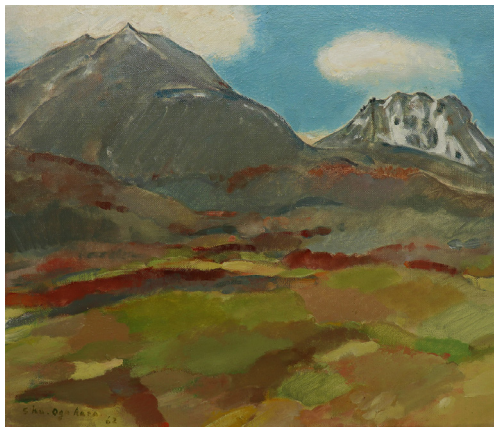


感動一点の場

『ニセコとイワオ』
1962年 小川原 脩 画



倶知安から西の方角に望む、ニセコアンヌプリと北隣に並ぶイワオヌプリの姿そのままに描かれています。二つの山の頂付近の深い沢でしょうか、白い雪が見て取れます。上空に浮かぶ白い雲はずいぶん優しい雰囲気です。森の木々は淡くすんだ晩秋らしい色がおおらかに並んでいます。冬のはじまりの季節を写し取ったこの作品は、長年、持ち主に愛されていたそうです。

この作品の来歴を、ご紹介します。「ニセコとイワオ」は、かつて倶知安町で開業していた医師・石田夫妻が小川原脩本人より譲られ、石田医院に掛けられていました。やがて倶知安の病院を閉じ、札幌で診療所を開いた時にも、この作品は院内を彩ったそうです。小児科医であった暁子夫人は亡くなるまでこの絵を見て倶知安を懐かしんでいたとのこと。さらに暁子夫人から引き継いだ方とともに旭川へ移動します。描かれてから60年あまり。倶知安から北上を続けた本作は、今年の10月当館へ寄贈され、倶知安への里帰りを果たしました。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）

本州からやってきたカマキリ

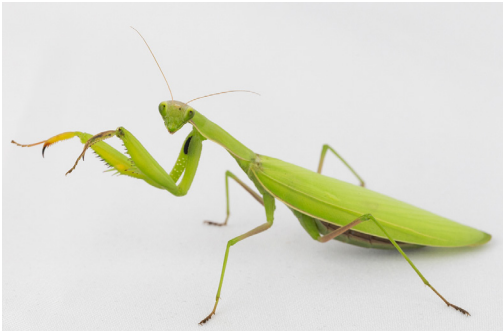
以前に取り上げたツチガエル（ふるさと探訪 486 回）に引き続き、今回も国内外来種の話。カマキリは昆虫好きに人気の昆虫の一つですが、一般的に、北海道には道南地域に生息するオオカマキリを除き、自然分布していないとされています。

しかし近年、本州から人為的に移入したと見られる種類のカマキリ（オオ、チョウセン、コ、ハラビロ）が、札幌や小樽をはじめ道内各所で見つかっています。そして今年の9月下旬、倶知安町内にある幼稚園の敷地内で、ウスバカマキリの成虫が発見されました。本州に生息し、北海道には定着していないとされるカマキリで、本州では主に河川敷や、やや湿った草地といった開けた環境に生息しています。近年では河原環境の悪化などから数が減少してきており、絶滅危惧種に指定する地域もあります。所変われば扱いも変わるものですね。

今回倶知安で見つかった個体は、おそらく本州から建設資材を持ってくる際にカマキリの卵嚢が付いた石などが運ばれ、今夏の記録的な猛暑もあって成虫になれたのではないかと考えられます。これから、似たような例が次々と出てくるかもしれません。

今回の発見は、町内幼稚園の園児と先生からの連絡があつてのことでした。この場を借りてお礼申し上げます。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



▲ウスバカマキリ

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第65回麓彩会展

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により創設された「麓彩会」。今年で65回目を迎えます。地域に根差した創作活動を展開する作家たちの近作を通じて、この地域の多彩な美術を紹介します。

会期：開催中～令和6年1月14日(日)

■第2展示室

小川原脩展「小川原脩と麓彩会」

小川原脩は麓彩会を「地方文化の苗床」として位置付け、自身の重要な作品発表の場としていました。麓彩会展出品作を中心に画業をたどる展覧会。

会期：開催中～令和6年2月12日（月・祝）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

小川原脩アートレクチャー(2)「20代・シュルレアリスムとの出会い」

小川原脩の美校卒業後からシュルレアリスムに傾倒するまでの時代をじっくり解説します。

日時：12月9日(土)14時～14時45分 会場：映像ルーム(無料)

お相手：沼田絵美（学芸員）

おとなの手しごと (23)「《徳さんと》ねんどの鳥に色をつけよう」

町内の画家・徳丸さんと一緒に、ねんどでできた鳥の彫刻に、自由に色を塗って仕上げます。前回参加していない方も参加できます。

日時：12月16日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）

お相手：徳丸滋（画家）・沼田絵美（学芸員）・金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

■ロビー展示

第16回絵画コンクール「ふるさとを描こう」作品展

絵画コンクール入賞者と応募のあった子どもたちの作品、全148作品をロビーに展示しています。応募者全員に招待券を配布していますので、ご活用ください。

日時：開催中～12月10日(日) 会場：ロビー（無料）

第16回絵画コンクール「ふるさとを描こう」入賞者（町内分、敬称略）

ふるさと賞／ 木村 大（倶知安小1年） 小林 美結（北陽小1年） 大西 絆（北陽小1年）
豊福 聖（東小2年） バンデンプリンク 一（倶知安小3年）
中谷 太一（西小4年） 渡邊 朔（北陽小4年） 中谷 心晴（倶知安小5年）
立川 ナイア（倶知安小5年） 佐藤 愛莉（倶知安小6年）

学 校 賞／ 倶知安小学校・北陽小学校

◎入賞作品は町 HP でご覧できます



ご当地スーパー

出掛ける系の趣味で以前は道の駅巡りをしていたしまして、道内全駅制覇を達成してひと段落。その後は美術館・博物館巡りなどにシフトしていった訳ですが、たまたま立ち寄る地方のスーパー、実はこれがかかなり面白いことに気付きました。

納豆、麺、総菜、野菜、海産物…ご当地の名物や特産品が、飾り気のない見た目と価格で無造作に陳列されていることがあるのです。

近頃は車にクーラーバッグを常備。その土地の流通事情や食習慣を想像しながら「食べるミュージアム」として、ひそかに楽しんでいます。

館 長 福 原 秀 和